

# 新領域「グローバル関係学」 Newsletter 2017. Apr. (No.1)

## ▼ 領域代表より ご挨拶

千葉大学 グローバル関係融合研究センター長 酒井 啓子



新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立 社会科学の確立」(略称「グローバル関係学」)は、2016年、文部科学省が実施する科学研究費助成事業「新学術領域研究」に採択されました。申請、採択にあたっては、多くの方々のご助言やご指導を頂きました。この場を借りて、深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

本新領域研究「グローバル関係学」が問題視するのは、現在、中東やアフリカ、アジアや南東欧など、世界各地での紛争、対立が、情報や思想、モノやカネ、人の移動のグローバル化などの影響を受け、複雑に絡み合うことによって、国際的な危機をもたらしていることです。

こうした現代的諸問題が示すのは、20世紀までの主権国家とそれを軸とした国際社会という近代社会科学的「常識」が崩壊し、社会の安定と発展を確保してきた諸制度が機能不全に陥っているという、危機的な事実です。しかし、こうした「新しい危機」ともいえる事象について、分野横断的な包括的視座をもって分析した研究は、いまだ存在しません。

危機に瀕している現代のグローバル社会の問題を読み解くには、主体そのものを分析の対象とするだけではなく、主体内部の関係性や、さまざまなレベル、規模の主体が相互に関係しあう、その関係性の変化と相互連関性を見ていくことが、必要です。

「グローバル関係学」の特徴は、さまざまな関係性に光を当てた研究を、狭い範囲の共同体からグ

ローバルなネットワークまで、幅広く行うことにあります。そして、政治学や経済学、地域研究や文化人類学など、既存の学問の枠を超えて、新しいグローバルな危機に対処する応用研究分野を生み出すことを、目指します。もっと大胆に言えば、「グローバル関係学」の目的は、諸学問の壁を壊し、現実の危機にキャッチアップできる、新しい学問領域を構築することにほかなりません。

そのため、「グローバル関係学」では、毎年、国際会議を国内外で開催します。そこでは難民問題や内戦など、喫緊のさまざまな事例を扱うとともに、紛争地出身の研究者や実務家、さらには世界中の第一線の研究者の英知を結集して、グローバルな関係性を把握する理論を、新たに模索します。そして、日本の地域研究の強みを存分に発揮して欧米主体の社会科学を相対化し、グローバルな学問の地平を広げます。

5つの計画研究および公募研究に集まった研究者たちは、総勢30名を超えます。政治学、経済学、国際関係、文化人類学、史学、文学、農学と、さまざまな分野でさまざまな研究対象を持つ、第一線の研究者が結集しました。彼らの意気込みをいかに「グローバル関係学」という名のチャレンジのなかで現実のものとしていくか、領域代表としての力量が問われることだと考えると、身の引き締まる思いで一杯です。しかし、それだけやりがいがあるチャレンジだと思っています。

ぜひ、「グローバル関係学」が繰り出すさまざまな研究上の挑戦に、ご期待ください

## 2016年度の主要な活動（領域全体）

### <主要な達成事業>

2016年度、総括班は、領域での研究基盤を確立するため、2つのことに着手しました。第1はウェブページの開設です。8月には、総括班広報委員会を中心にウェブを立ち上げ、公募研究を募集しました。また各計画研究が開催する研究会、ワークショップなど、さまざまなイベントを掲載し、多くの研究者の参加を促す場としました。

第2は、研究活動拠点として、千葉大学に「グローバル関係学融合研究センター」を立ち上げることです。領域が実施する各種研究を支える場として、また「グローバル関係学」の裾野を広げるために、千葉大学唯一の人文社会科学系全学センターとして、「グローバル関係学融合研究センター」が2017年4月1日に新設されました。

総括班は、国際活動支援班とともに、研究の国際共同、国際発信にも力点を置いています。「グローバル関係学」では、2年目以降毎年、海外の主要な大学、研究機関と共同で国際研究会議を開催することとしているため、総括班・国際活動支援班は、2年目となる2017年度の国際会議のテーマの選定を進めました。

その結果、現在のグローバルな危機の原因であり結果である「移民・難民・多文化共生」をテーマとし、共同開催相手にシンガポール国立大学中東研究所を選びました。2月には同研究所の Ho Eng seng 所長を始めとする主要研究員を招聘し、プログラムや招聘研究者、会議開催時期（2018年1月5-6日予定）などについて協議しました。

国際活動支援班の役割には、紛争など現代のグローバルな危機にさらされているアジア、アフリカ、中東地域の現地の研究者と密接な関係を構築することがあります。2月には、イラクのバグダード大学学長を招聘し、その結果、日本で初めての大学間交流協定が同大学と千葉大学との間で締結されました。このことは、招聘期間中バグダード大学一行が蕁浦外務副大臣に会見するなど、

日本外務省などにも高く評価されました。

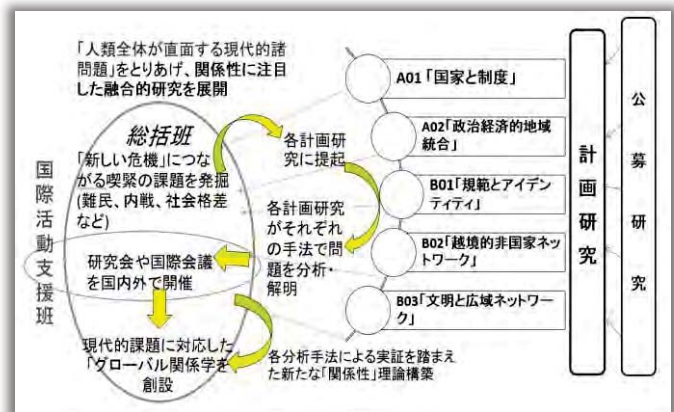
### <その他の活動>

「グローバル関係学」に関わる個別の調査研究を推進するとともに、いかにそれを理論化し、いかなる研究手法を開発するかが、総括班の最大の課題です。そのために、総括班会議を年度内に3回、全体会議を1回開催し、分担者たちの研究内容を相互に把握するとともに、「グローバル関係学」の考え方を共有する機会を持ちました。

その結果、2017年度からは、「関係学」構築のための理論的作業の場となるプロジェクトを複数、計画研究横断的に設置することとしました。その成果をオンラインで発表していくことができるように、編集委員会が、ウェブ上でのワーキングペーパーシリーズなどの構築を準備しています。

また、これまで「グローバル関係学」と密接な関係をもつ研究を行ってきた先達の協力を得るため、総括班評価者として家田修氏（北海道大学）、石川登氏（京都大学）、石田淳氏（東京大学）、武内進一氏（東京外国語大学）、長沢栄治氏（東京大学）にご就任いただきました。領域が実施するさまざまな研究事業にご参加いただき、適宜助言をいただく予定です。

総括班には、多くの特任研究員や研究協力者が参加していますが、それら若手研究者の研究を促進、育成するため、若手育成委員会が3月に、特任研究員研究報告会を開催しました。



## 2016年度の主要な活動（各計画研究）

### 計画研究 A01「国家と制度:固定化された関係性」

研究計画 A01 の目的のひとつは、主体・制度としての国家が、いかにその領域主権国家性の維持を実現するか、また域外の超大国やグローバルな諸変動の影響、さらに難民・移民の到来や宗教・宗派・民族間の対立など越境的事象の拡散や浸透に対し、いかに防波堤の役割を果たすか（あるいは果たせないか）という観点から、個別の国家と制度の調査研究を行うことにあります。

初年度の 2016 年においては、その観点から、イラン（松永）、エジプト（鈴木恵）、パキスタン（井上）、インドネシア（増原）、トルコ（岩坂）を主な対象とした、文献収集と現地調査等を通じた実証研究に従事しました。また研究協力者である Marilène Karam と Khalil Dahbi を、それぞれトルコとチュニジアに調査に派遣し、公文書館や図書館等で関連する歴史的資料を収集しました。

また、分担者の中山は、国家と制度の特定のあり方のゆえに顕在化している、中東・アフリカ諸国から近隣諸国・欧州等への難民・移民の移動とそれを巡るガバナンスや国際レジームの研究を行っていますが、その一環として、中東を起源とする難民の問題に関する文献収集も行いました。

2016 年度の主要な成果としては、2 月に東京外国語大学において、近代化の一環として国家主導の上からの世俗化を経験した後に、社会的な宗教復興運動が政治権力を奪取する経験をしたトルコとイランの事例を主対象とし、比較歴史分析や政治理論、法哲学の立場から議論を行う国際ワークショップ ("Imagining an Alternative 'Post-Secular' State: Historicizing and Comparing National Struggles over Re-secularization") を、トルコ、イラン、オーストラリア、アメリカから研究者を招聘し開催したことが挙げられるでしょう。2017 年度は、引き続き同じテーマで、パキスタン、エジプトを対象として、国際ワークショップを企画しています。これは、「再世俗化」とい

う視点から国家・宗教関係の変遷を考える、継続的な研究事業として A02 の中核に位置付けられています。

### 計画研究 A02「政治経済的地域統合」

計画研究 A02 は、政治経済的地域統合のマクロ的な現状形成の要因となっている、さらに下部階層のメソ・ミクロ的主体間（例えば企業間、政治的集団間、民族間）の関係性に着目することで、統合の阻害要因を詳細に分析しました。地域統合の阻害要因と関係性に関する論文執筆を共同で開始し、これを受けて、東南アジア諸国連合（ASEAN）の関係性分断の要因分析を主題に国際シンポジウムを 11 月に開催し、所得格差、政治信条の違いおよび国内の諸民族間の差異性が政治経済的地域統合の分断要因となっている点を検証しました。同シンポジウムでは、ASEAN 開発のための国際機関代表、日本における政治難民第 1 号の方および在日ミャンマー人・留学生らを招聘し、シンポジウムでの登壇およびセミナー開催を行いました。その成果は、研究図書『ASEAN の統合と開発』（作品社）として刊行されました。

特にミャンマーに注目し、同国の軍政時代に民主化に関わりアウンサンスーチー氏と対話の窓口を務めたキンニョン元首相と、計画研究代表がヤンゴンにて面談し、ミャンマーの「民主化ロードマップ」およびいわゆる「ロヒンギャ問題」（ミャンマー国内の「難民」もしくは認定されていない「少数民族」の扱いを巡る課題）について聞き取り調査を行いました。

また、2 月には、ノルウェー国際問題研究所から紛争問題研究者を招聘して、アフリカ安全保障研究セミナー（共催）を開催しました。そこでは、アフリカでの紛争解決におけるアフリカ連合の役割について、活発な議論がなされました。

貿易摩擦や産業団体からの政策支持・不支持の表明、地域的紛争や反政府デモなど、比較的小規模の「揺らぎ」はシステム全体の揺らぎへと拡大



することにつながります。分担者の水島は、現在世界を席卷する「ポピュリズム」について、『ポピュリズムとは何か』（中公新書）を出版し、大きな話題を呼びました。そしてそうした動きは、新たなシステムとしての地域統合の創発を要請します。2017年度には、そのメカニズムに関する考察を、欧米・中東・アフリカおよびアジア太平洋地域の事例に着目しながら深める予定です。

#### 計画研究 B01 「規範とアイデンティティ：社会的紐帯とナショナリズムの間」

計画研究 B01 では、グローバル社会のさまざまな地域の共同体の社会意識、社会的紐帯に関わる調査・研究を行うことを主眼に置いています。

2016年度は、特に難民、移民社会における紐帯意識や多文化共生を取り上げ、名古屋で開催された「国際メトロポリス会議」で研究協力者とともにワークショップを企画、トルコやレバノン、スーダンにおけるシリア難民の現状分析や、レバノンでのパレスチナ難民、欧州・日本における移民・難民の受け入れ状況とその背景にある思想について、研究協力者とともに、報告を行いました。

また、難民社会に対する医療・看護の側面から、上記ワークショップでは大阪赤十字病院のレバノンでの看護活動が報告されましたが、その後千葉大学看護学研究科との協力のもと、難民支援ワークショップを連続で開催し、医療と難民研究をつなぐ試みを行いました。そこでは、在シリア UNDP、在アンマン UNICEF 職員を招聘し、研究者のみならず実務家との間で活発な意見交換、情報交換を行うとともに、計画研究 B02 や領域外のプロジェクトと共催で、ワークショップを開催しました。

一方で計画研究 B01 では、映画や文学、歴史的記憶などの非言語的シンボルが表す社会的紐帯に光を当てることから、分担者の山本が「アラブの春」を契機として新たな方向性を模索する現代エジプトの映像芸術を取り上げ、新進気鋭のエジプト人映画監督を招聘しました。こうした非言語的シンボル研究は、分担者の福田を中心に、2017年度にはスポーツとナショナリズムを取り上げて、

発展させていく予定です。

シンボルやモノによって表象される社会意識という意味では、イスラーム世界において女性のヴェールは重要な研究テーマです。社会学、歴史学の手法に基づき、分担者の帯谷が中央アジアと中東の事例について報告を行うワークショップを、2月に開催しました。

#### 計画研究 B02 「越境的非国家ネットワーク：国家破綻と紛争」

計画研究 B02 では、近年深刻な国際問題となっている、紛争や内戦などの結果として起こる「国家破綻」の実態と、その権力の空白に出現する非国家主体やその越境的なネットワークの実態の分析に注力しています。

2016年度は、主に次の2つを目標に掲げ、研究活動を行いました。

第1に、2017年度以降に実施する「崩壊国家」（ソマリア、イラク、シリア、イエメン、シエラレオネ、ボスニアなど）における世論調査のための予備調査、具体的には、①当該国の研究機関とのネットワーク形成と②「崩壊国家」に暮らす人びとに見られる「国家観のズレ」を析出するための研究デザインに関する議論を進めました。9月にはイラクからバグダード大学など主要大学、2月にはシリアからシリア政策調査センターの専門家を招聘し、ワークショップ（いずれも共催）を開催することで、今後の研究活動における協力関係を確立しました。また、年度を通して、本班の研究分担者・協力者は、積極的に国内外へ出張を通して、世論調査実施研究機関の確定、そして、各国共通の世論調査票の作成を完了させました。

第2に、越境的な活動実態を有する非国家アクターの実証研究を進めました。2016年度は、イスラーム主義運動の動向に着目し、社会運動理論や比較政治学の諸理論を参照しながら、現下の中東各国の内政および国際政治における現状と今後の展望について研究を行いました。本班の研究分担者・協力者にゲストスピーカーを加えたワークショップを開催（1月）し、異なる国家／地域の専門

家の知見を持ち寄ることで、さまざまなイスラーム主義運動の間に見られる「関係性」を浮き彫りにしました。また、レバノンやヨルダンでのイスラーム的 NGO に関する現地調査も実施し、宗教に基づく越境的な活動が各地において強い影響力を持っていることが確認されました。

#### 計画研究 B03：文明と広域ネットワーク：生態圏から思想、経済、運動のグローバル化まで

計画研究 B03 では、国家間関係ではカバーできない、地球規模で共有される諸問題と諸現象が増加している現状を踏まえ、グローバルな問題解決アプローチとグローバル・コモنزの創生の可能性を探ることを目的とします。2016年度は、主に以下の活動を行いました。

まず、グローバル・コモنزを地域ごとに考えることを出発点として、東南アジア・メコン地域に焦点を絞り、11月に国際シンポジウムを計画研究 A02 と共催し、国際法、国際経済、国際政治などの枠組みから ASEAN とメコンの地域主義にアプローチしました。その成果は、上述の通り、『ASEAN の統合と開発』として出版されました。また1月には、メコン開発の現状と

NGO、メコン地域における人身売買・人身取引と NGO に関する特別講演を開催しました。さらにグローバル・コモنزの基盤となりうるグローバル市民社会の量的分析に向けて、データベースを購入、市民社会ネットワークの数の推移や地域ごとの変化を把握するのに努めました。

一方で、分担者による個別の調査研究を着実に進め、代表者がベトナム、ラオスでの調査を実施した他、分担者はイタリア、ドイツ、英国、トルコ、ザンビアなどで聞き取り調査や資料収集を行いました。特にザンビアでは難民キャンプを訪問し、農学の視点からのフィールド調査の準備作業を行いました。また環境問題を扱う観点から、11月には駐日イラク大使館などの協力を得て、イラク南部湿地帯の現状を巡るセミナーを開催しました。文理融合を目指す本計画研究では、農学や環境学など、理系分野の研究との協働を推進します。

2017年度には、グローバル・コモنز研究会を立ち上げ、また国際ワークショップを実施して、他の研究計画の分担者等とも連携しながら、グローバル・コモنزに関する研究を進める予定です。

---

## 2016年度、公募研究を募集しました……7件が採択されました

新領域研究は、予め共同研究の枠組みが定まっている計画研究のみによって構成されるのではなく、個人による公募研究を募集し、計画研究と連携しながら新領域研究を発展、拡大させていきます。

そのため、2016年9月、以下のテーマについて公募を行いました。

- C01：既存計画研究でカバーしていない地域（東アジア、南北アメリカ、ロシアとその周辺など）を中心とした、国家体制と社会運動（国家内およびトランスナショナルを含む）の関係性分析
- C02：地域統合体・協力協定（EU、ASEAN、FTA など）の経済面、社会文化面、安全保障上の役割と諸国間関係の変化
- C03：グローバルな人の移動、技術伝播、思想の伝播が関係の変動・連関・定着に与える影響
- C04：関係性分析の新たな認識枠組みや分析視座の提示、あるいは理論、分析手法構築の試み

その結果、2017年度には、7件（C01 1件、C03 2件、C04 4件）の公募研究が内定しました。

今後は、各計画研究や総括班主導のプロジェクトとの連携を模索しつつ、新領域の確立に貢献できる道を目指します。

## 2017年度 研究者一覧

氏名	所属・職位	担当
酒井 啓子	千葉大学大学院社会科学研究院教授	領域代表 計画研究 B01 代表 総括班 国際活動支援班
A01「国家と制度：固定化された関係性」		
松永 泰行	東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授	計画研究 A01 代表 総括班 国際活動支援班
井上 あえか	就実大学人文科学部教授	計画研究 A01
岩坂 将充	同志社大学高等研究教育機構准教授	計画研究 A01
鈴木 恵美	早稲田大学 地域・地域間研究機構主任研究員	計画研究 A01
中山 裕美	東京外国語大学 現代アフリカ地域研究センター 講師	計画研究 A01
錦田 愛子	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授	計画研究 A01
増原 綾子	亜細亜大学国際関係学部准教授	計画研究 A01
A02「政治経済的地域統合」		
石戸 光	千葉大学大学院社会科学研究院教授	計画研究 A02 代表 総括班 国際活動支援班
池田 明史	東洋英和女学院大学学長 国際社会学部教授	計画研究 A02
鈴木 絢女	同志社大学法学部准教授	計画研究 A02 総括班
畑佐 伸英	名古屋経済大学経済学部教授	計画研究 A02
水島 治郎	千葉大学大学院社会科学研究院教授	計画研究 A02
落合 雄彦	龍谷大学法学部教授	計画研究 A02 国際活動支援班
松尾 昌樹	宇都宮大学国際学部准教授	計画研究 A02
B01「規範とアイデンティティ：社会的紐帯とナショナリズムの間」		
酒井 啓子	千葉大学大学院社会科学研究院教授	領域代表 計画研究 B01 代表 総括班 国際活動支援班
帯谷 知可	京都大学東南アジア地域研究研究所准教授	計画研究 B01
後藤 絵美	東京大学日本・アジアに関する教育研究ネットワーク (ASNET 機構) 特任准教授, 東洋文化研究所 西アジア研究部門 准教授	計画研究 B01
小林 正弥	千葉大学大学院社会科学研究院教授	計画研究 B01
佐川 徹	慶應義塾大学文学部助教	計画研究 B01
福田 宏	成城大学法学部准教授	計画研究 B01
山本 薫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所研究員	計画研究 B01
B02「非国家主体による越境的ネットワーク：国家破綻と紛争」		
末近 浩太	立命館大学国際関係学部教授	計画研究 B02 代表 総括班 国際活動支援班
遠藤 貢	東京大学総合文化研究科教授	計画研究 B02
久保 慶一	早稲田大学政治経済学術院教授	計画研究 B02 国際活動支援班
松本 弘	大東文化大学国際関係学部教授	計画研究 B02
山尾 大	九州大学大学院比較社会文化研究院准教授	計画研究 B02 総括班 国際活動支援班
B03「文明と広域ネットワーク：生態圏から思想、経済、運動のグローバル化まで」		
五十嵐 誠一	千葉大学大学院社会科学研究院准教授	計画研究 B03 代表 総括班 国際活動支援班
渥美 利弘	明治学院大学経済学部准教授	計画研究 B03
石田 憲	千葉大学大学院社会科学研究院教授	計画研究 B03
高垣 美智子	千葉大学国際教養学部教授	計画研究 B03 総括班
丸山 淳子	津田塾大学学芸学部准教授	計画研究 B03
森 千香子	一橋大学大学院法学研究科准教授	計画研究 B03
横田 貴之	明治大学情報コミュニケーション学部准教授	計画研究 B03

## 2016 年度会議等開催記録

年月	日	会議名	会場	主催
2016 年 9 月	4 日	第一回総括班・国際活動支援班合同会議	東京外国語大学本郷サテライト	総括班
	24-25 日	日本・イラク学術合同ワークショップ「ポスト IS 時代のイラク：より良い将来を模索して」	千葉大学 東京大学東洋文化研究所	B02 (共)
10 月	26 日	「国際メトロポリス会議 2016 愛知・名古屋」”Situation of Refugees and their search for Co-existence in the host countries I & II”	名古屋国際会議場	B03
11 月	15 日	国際シンポジウム”The Relevance of Area Studies for the Sciences and Public Policy : Examples from Europe & Asia”	東京大学 本郷キャンパス	総括班 (共)
	19 日	国際シンポジウム「ASEAN の統合と開発：メコン川とミャンマーから考える」	千葉大学	A02、 B03 (共)
	19 日	研究会「現代中東の地殻変動とその眺望：政治・社会・思想の動的な連関を考察する」	京都大学吉田キャンパス	B02 (共)
	22 日	国際セミナー「ミャンマーの開発と民主化」	千葉大学	A02
	27 日	第二回総括班会議および第一回全体会議	東京外国語大学本郷サテライト	総括班
	28 日	2016 年イラク・アフワール世界遺産登録記念 日本・イラク文化交流セミナー「バスラと湿原のアラブ」	東京大学本郷キャンパス	B03 (後援)
	29 日	国際ワークショップ「エジプト映画の最先端～アフマド・アブダッラー監督を迎えて～」	東京外国語大学	B01 (共)
12 月	9 日	「難民支援ワークショップシリーズ」第 1 回「イラクの難民支援」	千葉大学亥鼻キャンパス	B01 (共)
	10 日	国際シンポジウム「中国の国際紛争における新たな役割と行動 不介入原則への発展的取り組み」	立命館大学衣笠キャンパス	B02 (共)
2017 年 1 月	7 日	シンポジウム「イスラーム主義運動は中東政治に何をもたらしたのか：民主化・独裁・内戦」	立命館大学衣笠キャンパス	B02 (共)
	20 日	「難民支援ワークショップシリーズ」第 2 回「パレスチナにおける子どもの難民の現状と支援」	千葉大学亥鼻キャンパス	B01 (共)
	31 日	難民支援ワークショップシリーズ」第 3 回『特別国際シンポジウム』	千葉大学亥鼻キャンパス	B01 (共)
2 月	4 日	ワークショップ「中央アジアのイスラーム、ジェンダー、家族—旧ソ連イスラーム地域研究と中東研究をつなぐ」	京都大学稲盛財団記念館	B01 (共)
	11 日	シンポジウム「シリア危機への実効的アプローチに向けて：シリア人専門家と日本の NGO・アカデミアとの対話を通して」	明治学院大学白金校舎国際会議場	B01、B02 (共)



	14日	特別シンポジウム「IS後のイラク再建を目指して；教育と医療の現場から」	東海大学校友会館	総括班
	15日	「難民支援ワークショップシリーズ」第4回「世界における“人の移動”と国連の役割」	千葉大学亥鼻キャンパス	B01（共）
	16日	難民支援ワークショップシリーズ」第5回「世界の難民」	千葉大学亥鼻キャンパス	B01（共）
	17日	国際ワークショップ（A01班）“Imagining an Alternative 'Post-Secular' State: Historicizing and Comparing National Struggles over Re-secularization”	東京外国語大学アジア・アフリカ研究所	A01（共）
	18日	国際ワークショップ（AA研拠点）“State and Sharia in the Pre-20th Century Middle East”	東京外国語大学アジア・アフリカ研究所	A01（共）
	23日	講演会：エンギン・クルチ博士「オルハン・パムクの文学世界」	大阪大学箕面キャンパス	B01、A01（共）
	24、26日	第三回総括班・国際活動支援班合同会議	立命館大学東京キャンパス、早稲田大学早稲田キャンパス	総括班
	25日	アフリカ安全保障セミナー「アフリカの問題にはアフリカ的な解決があるのか？」	上智大学四谷キャンパス	A02（共）
3月	10日	国際シンポジウム「戦後世界秩序を振り返る—2017年から」	東京大学駒場キャンパス	総括班
	17日	シンポジウム「TPP及び東アジアの経済統合」	千葉大学	A02
	21日	国際セミナー “The Geography of Maritime Boundary Delimitation: A Focus on the East and South China Seas”	同志社大学	A02
	23日	第一回特任研究員研究報告会（幸加木、韓炳燮、韓葵花）	千葉大学西千葉キャンパス	総括班



CHIBA  
UNIVERSITY

2017年4月28日発行

編集責任 酒井啓子

編集協力 鈴木梨紗子／幸加木文

発行者 酒井啓子

発行所 千葉大学グローバル関係融合研究センター

263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学

Tel. 043-290-2334

e-mail: [glblcrss@chiba-u.jp](mailto:glblcrss@chiba-u.jp)

インターネットホームページ：<http://www.shd.chiba-u.jp/glblcrss/index.html>